

学びのネットワーク 市民講師によるサロン塾

「人材バンク推進委員の会と」市民大学との共同企画

第4回

俳句入門

—形式に拘ない自由な俳句—

期 日 令和5年11月6日（月）
午後1時30分から3時30分時まで
場 所 鶴瀬公民館・いきいき活動室
講 師 世羅陽一郎氏・市民人材バンク登録者
参 加 者 6名

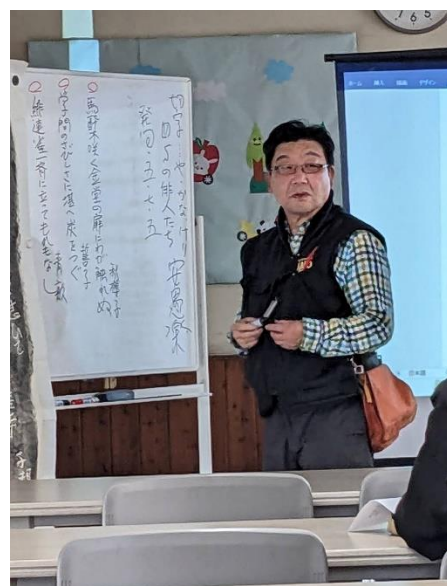
形式にこだわらない自由な俳句とは

西東三鬼・津山出身「天狼」
水枕ガバリと寒い海がある
おそるべき君等の乳房夏来る

日野草城・上野湿出身「清玄」
丸善を出て暮れにけり春の泥
ところてん煙の如く沈み居り

荻原井泉水・港区浜松出身「を主宰し多くの俳人を出す」
水がうたいはじめる春になる
月光ほろほろ風鈴に戯れ

尾崎放哉・鳥取出身「層雲」
寂しいからだから爪がのび出す
墓のうらに廻る



講 師 世羅 陽一郎氏

種田山頭火・防府出身「層雲」

まっすぐな道でさみしい

分け入っても分け入っても青い山

橋本夢道・徳島出身「層雲、旗」

うごけば、寒い

いくさなき人生がきて夏祭

金子兜太・皆野町出身「海程」

曼殊沙華どれも腹出し秩父の子

酒止めようかどの本能と遊ぼうか

その他にホトトギスの4Sと言われる俳人として

高野素十

秋風やくわらんと鳴り幡の鈴

水原秋桜子

馬酔木咲く金堂の扉にわが足触れる

山口誓子

学問のさびしさに堪え炭をつぐ

阿波野青畝

緋連雀一斉に立ってもれもなし

正岡子規の志をついで高浜虚子、河東碧梧桐の活躍により大正・昭和へ大きく俳句が花開きました

碧梧桐は俳句定型から自由律へ進み、新興俳人に影響を与えました。

今日、俳句ブームで俳句人口が600万人いると言われます。5・7・5の韻律は世界最短の定型詩です。

また、芭蕉は「俳諧は老後の楽也」という言葉を残している。

江戸時代に芭蕉の言葉をよく伝えた「去来抄」の編者、向井去来の功績は大きい。

芭蕉の後輩の服部土芳は、「見るに有、聞くに有、作者感じるや句と成る所は、即俳諧の誠也」と説いて句作りの指針を示しました。



和歌・連歌・俳諧・俳句へと変遷の中で俳句の源になったのは、「俳諧の発句」です。発句には季語を入れる決まりでした。

1. 五・七・五の十七音のリズムで・・・字余り、字足らず
2. 季節を表す言葉である「季語」を入れる・・・当季を詠む
3. 一句に完結性もたらず「切字」・・・や、かな、けり、し等
一句の中に二つの切字を使用は控える。

堅題季語「連歌四季之詞」

更衣・初霜・時雨・冬籠・衾・凧・落葉・木の葉・綿・氷魚（鮎の稚魚）
衛（ちどり）・小春・霜・雪・水鳥・歳暮・冬月・鶯

横題季語「俳諧四季之詞」

神送・炉開・達磨忌・神の留守・蒲団敷・頭巾・火桶・茎菜・納豆汁・枇杷の花・山茶花・大根引・寒菊・麦蒔・生海鼠（なまこ）・鱈

二十四節気

一年を二十四に区切り暦を設けました。節気はすべて季語です。

春・立春、雨水、啓蟄、春分、清明、穀雨

夏・立夏、小満、芒種、夏至、小暑、大暑

秋・立秋、処暑、白露、秋分、寒露、霜降

冬・立冬、小雪、大雪、冬至、小寒、大寒、

講座の後半は、受講生の発句の時間

皆さんそれぞれ、季語を入れて発句に挑戦、・・・ひとり2・3句を講師に添削してもらい、・・・にっこりの人もいれば、やはり難しい、という人もいて部屋が和やかになりました。

なお、講師の世羅陽一郎さんは、芭蕉の歩かれた福島県の飯坂温泉を訪ねて芭蕉の句碑及びそこにまつわる、お話なども聞かれたとのこと。

報告 三上聰雄

以 上